



最近ではごみを細かく分別しないで捨てる市などもあるようですが、津山市でも今後ごみの分別方法を再検討するのでしょうか？（東一宮・女性）

家庭から排出されるごみは、市町村が処理することになっています。そのため、それぞれの市町村のごみ処理施設や処理方法の違いにより、分別方法も異なっています。

例えば、津山市（久米地域

を除く）では「プラスチック製容器包装」を分別して再生処理業者に引き渡していますが、可燃ごみとして焼却し発生する熱を利用して発電している市町村もあります。

現在津山市は、周辺4町とともにごみを共同で処理する広域の新クリーンセンターの建設に取り組んでいます。資源の循環による持続可能な社会の形成を基本理念として、最新のごみ処理技術の中から私たちの地域に最も適した処理方法を選択する絶好の機会です。平成26年度の稼働に向けてごみの分別方法についても検討が進められる予定ですので、ご意見などがありましたらお寄せください。



問い合わせ先 環境事業所
☎22・8255

つやまっ子に贈る100冊の本



つやまっ子読書プランキャラクター「ぶっくちゃん」

懐しい津山で繰り広げられる 友情と成長の物語



推薦者
津高 昌人さん(総社)

昭和20年代後半の津山を舞台に、小学6年の四人組が実現不可能なことを思い立ち、成し遂げようと奮闘

する中で、それぞれの個性を伸ばし、中学生へ向けて成長していく物語。それが『おれたちの修学旅行』（短編集）です。

表題作は、10日間だけ転校してきた女の子に、修学旅行の途中会いに行く話です。学校や家庭を巻き込みながらさまざまな困難を乗り越え、ついに再会した時の女の子とそのお母さんの涙。次から次へとページをめくる手を止められないほど、引き込まれる感動の物語です。

この本は、私が奈義小学校に勤務していた時の大先輩で、津山市教育長も務めた神崎先生の作品。大崎小学校や広戸川、華やかかりし頃の津山の中心商店街なども登場します。おじいちゃん、おばあちゃんには懐かしい風景ですので、一緒に読んでもらおうといろいろな思い出話を聞かせてもらえるかもしれませんね。

思いを寄せる仲間のために発揮する四人組の行動力とエネルギーがあふれている作品です。仲間や大人とかかわりながら成長していく彼らのバイタリティーを同年代の子どもたちに感じてもらいたいですね。



『おれたちの修学旅行』
神崎博彦著（文芸社）

きらめく津山人

囲碁の奥深さを楽しみたい

囲碁6段・津山高等学校2年
後藤 春彦さん(小原)



高校1年で全国高校囲碁選手権大会（男子個人）準優勝、2年ではワールドユース囲碁選手権（年長の部）に日本代表としてただ一人出場し、4位入賞。輝かしい軌跡を描いている後藤さんにお話を伺いました。

ワールドユースはどうでしたか？

昨年8月に、中国で韓国や米国、欧州など、九つの国や地域から20人の選手が参加して行われました。予想どおり中国や韓国、台湾の選手は感動的なほど格段に強かったです。自分よりも年下で、それぞれの国のトップ

プよりも少し低いレベルの人たちが選手として参加していたにもかかわらず、実力の差を悲しいほど感じました。競技人口や選手の育成制度の違いを実感しました。対局の後は、同世代の各国の選手と交流でき、とてもよい経験となりました。

囲碁との出会いは？

祖父が囲碁をしていたことや、小学3年の時に『ヒカルの碁』という漫画を読んで影響を受けたことがきっかけで、いつの間にかインターネットで囲碁を始めました。

同級生がテレビゲームにはまっていた当時、自分はインターネットで囲碁にのめり込んでいました。勝つとうれしい、負けるものすごく悔しくて、自分自身に腹が立ちました。勝っても負けても「次の碁へ、次の碁へ」と導かれるように打ちました。

インターネットで囲碁ですか？

インターネットでは本名では



▲第32回全国高校囲碁選手権大会での準優勝（前列中央が後藤さん）

相手の手を読めるか」「どれだけ違う手を思いつくか」を状況に合わせて考え、打ち進める奥深さが魅力ですね。

これからの目標は？

現在、出場が決定している全国大会が二つあります。3月20・21日に大阪で開催される全国高等学校囲碁選抜大会、8月に宮崎で開催される全国高等学校総合文化祭で結果を残したいです。

また、昨年は修学旅行と重なったため全国高校囲碁選手権大会岡山県大会の出場を断念。今年こそ県大会で優勝して、7月に開催される全国大会で頑張りたいです。

外見からは想像がつかないほど熱い闘志を秘める後藤さん。今年度は高校最後となる3年生。全国大会での優勝が期待されます。

最初の一手目から終局までの手順を「棋譜」といいますが、4千年以上の歴史の中で一度も同じ棋譜になった碁はないそうです。定石はありますが、定石が最善とは限りません。お互い勝つために「そこからどれだけ